

環境力大賞を受賞して

田中 稔 (たなか みのる / 田中建材株式会社代表)

環境と力

当社のある滋賀県は、日本のほぼ中央部分にあたり、日本最大の琵琶湖を抱える地です。その中でも自然の豊かな田舎で事業を営んでいます。高島市という地名で、高島屋百貨店の創業者出身地という事でも知られているところでもあります。

当社は建設業を中心として事業を営み、1990年に、2000年頃から人口が減少し建設の資本投資も減少し、建設そのものが立ちいかななくなるとの危機感と、環境破壊が進み、一部の学者の中で、2030年頃には地球に人が住めなくなるとおっしゃっている方がおられ、今後、環境というキーワードが私たちの生命の存続を左右する時代が来ると感じると共に、そういう時代に向けて私たちの出来ることから始めようと、リサイクル事業への取り組みをまず始めました。

その後、創業者からの社長交代時に「環境で地域一番」を目指そうと、環境のボランティアや建設の環境に寄与できる新技術開発に取り組み、実現しようと努力してきました。自分たちで環境先進企業を標榜し、優れた企業になるためには他からの評価を得られる企業になろうと環境技術や褒章への応募にも挑戦し続けてきました。

環境事業や環境技術開発と販売に携わる中で、いろいろな弊害も感じてきました。

過去の廃棄物のイメージの悪さのため苦労したことや、新しい技術の採用に関して閉鎖的な発注機関の担当者との、先の見えない議論。その中で環境が社会を救うと言われながらも、社会の役に立つには複雑な事情が多々あり、それらの関係各者の不利益にならないことと企業の不利益とを解決することのできる技術が、初めて係わる人たちに良い経済効果を生み出すこと、さらには社会か

らも認められるのが現実であると、今更ながら再認識させられる体験を何度もしました。

環境というものを推進するためには、パワーという力技が必要です。それを持つものは巨大な資本だけではないかと感じながら、寝ても覚めても環境に良い当社の技術をどうして解ってもらえないのかと考える毎日でした。そうした中で、本当に良い思想で造られた良い技術が売れないのは、どこかに見落としている欠点があるからで、買う側の問題ではないと思い当たったときが、今思うと環境という力に目覚めた時期であったように思います。



(当社の開発した琵琶湖畔の木質舗装)

その思いが変わった次の瞬間から、私が変わったわけではありませんが、協力して頂ける方々との出会いが有ったり、自分の心の迷いが無くなったように思います。未だに思いは半ばで、情熱ばかりが先行する毎日ですが、環境には潜在する力があり、それは私たちを良い方向へと導く力があると確信しています。

しかし、環境そのものに力があるのではなく、それを取り扱う個人や団体に力がないと、環境自身も力を発揮できないと実感しています。

宗教や哲学という心を形成する力が求心力を失

いかけている今、それに変わる心よりどころとして力を発揮しなければならないのは、環境という地球全体を覆っているテーマの危機感であり、それをどう良い方向へ導くのが今後の個人や社会のあり方を変えて行くのだと感じています。

我が社の環境力

私達が15年程前、最初に始めたのが道路清掃でした。社員に早く出社してもらい、最初は何となく気恥ずかしい感じを持ちながらやりましたが、そのうちに無心に出来るようになりました。環境への係わりを更に深めるきっかけを作ってくれたのが、しょうがい者の方々から回収した空ペットボトルを当社の造っている有機肥料との交換をしたときのボランティア活動でした。小さな小袋に手作業で肥料を詰め、それをペットボトルと交換して回る。その作業に携わることが、しょうがい者の方たち自身の喜びや力になっていると感じました。それ以降、名刺にしょうがい者の方に点字を入れて頂いたり、当社が開発している舗装のバリアフリー対応などに思いを巡らすきっかけを作ってくれました。

阪神大震災時のボランティア参加や、翌年の冬に青年会議所の事業で当社の敷地にある雪を神戸の小学生に届ける事業に参加し、災害の悲惨さや対応できることをと考えると、社員や近隣の方のための炊き出し施設や食材の備蓄を始めました。何年かに一回、災害体験をかねて備蓄して古くなったお米や缶詰等を食べています。

これも環境に携わる中で養われた意識がその力を発揮してくれたのだと思います。

当社は「心の進化」という考えを多用しています。生命体として体が進化してきたと同じように心が進化してきたのかを考え、また、今後も更に心が進化することが環境問題を始めあらゆる事の解決のキーワードだと説いています。

その実践のために、私たちの地域で生誕された陽明学者の中江藤樹先生の思想を学んだり、いろ

いろな方のお話を伺うなどして取り組みをすすめています。

毎月1回全体の会議の中で時間を取り、その当日発行している社内誌に、当社に勤めて頂いているお寺の住職さんの講話を掲載し、お話を伺う機会を設けています。

事業の環境力

私達の事業は土木建設が中心ですが、木質の徹底したリサイクルによる解体廃材による国内初の肥料の届け出の受理や、産学連携による技術開発に取り組み、国内初の加熱したアスファルトによる木質舗装の技術開発と事業化を実現しました。また、木質炭の磁気化による圃場排水の技術開発。特殊な木質構造体の研究に積極的に取り組んできました。それを突き動かす原動力も環境力に他ならないと感じています。

前進する勇気と併せ持たなければならないのが縮小する勇気です。今回、当社でも初めて縮小化に取り組みました。

人は絶え間無い物質的欲望を満たすために進歩を目指してきました。同じように神の存在を予感し、それに近づこうと精神の修養につとめ、他よりも優れた心になることに努力してきた面もあったと考えさせられます。他の成功を願うような社会、他の価値観を認めそれぞれの多様性を認める社会の出現を期待しているのに、正反対の事象が突発的に発生するのが現実です。

過去の時代は一方向だけを目指すような社会でした。しかし、現在は多種多様で、一様な社会ではなく、あらゆる方向を目指す社会があります。今後も未来は必ず明るいと感じて突き進み、今起こっている不幸な出来事にも、何らかの形で社会に良い方向を導き出そうという意志があると信じたいと考えています。その時その動きの根底に流れる心が環境力であり、良識を備えた者に力が与えられることにより、正しい社会が形成されていくのだと思います。